

# 麻績の里ってどうしていうの？

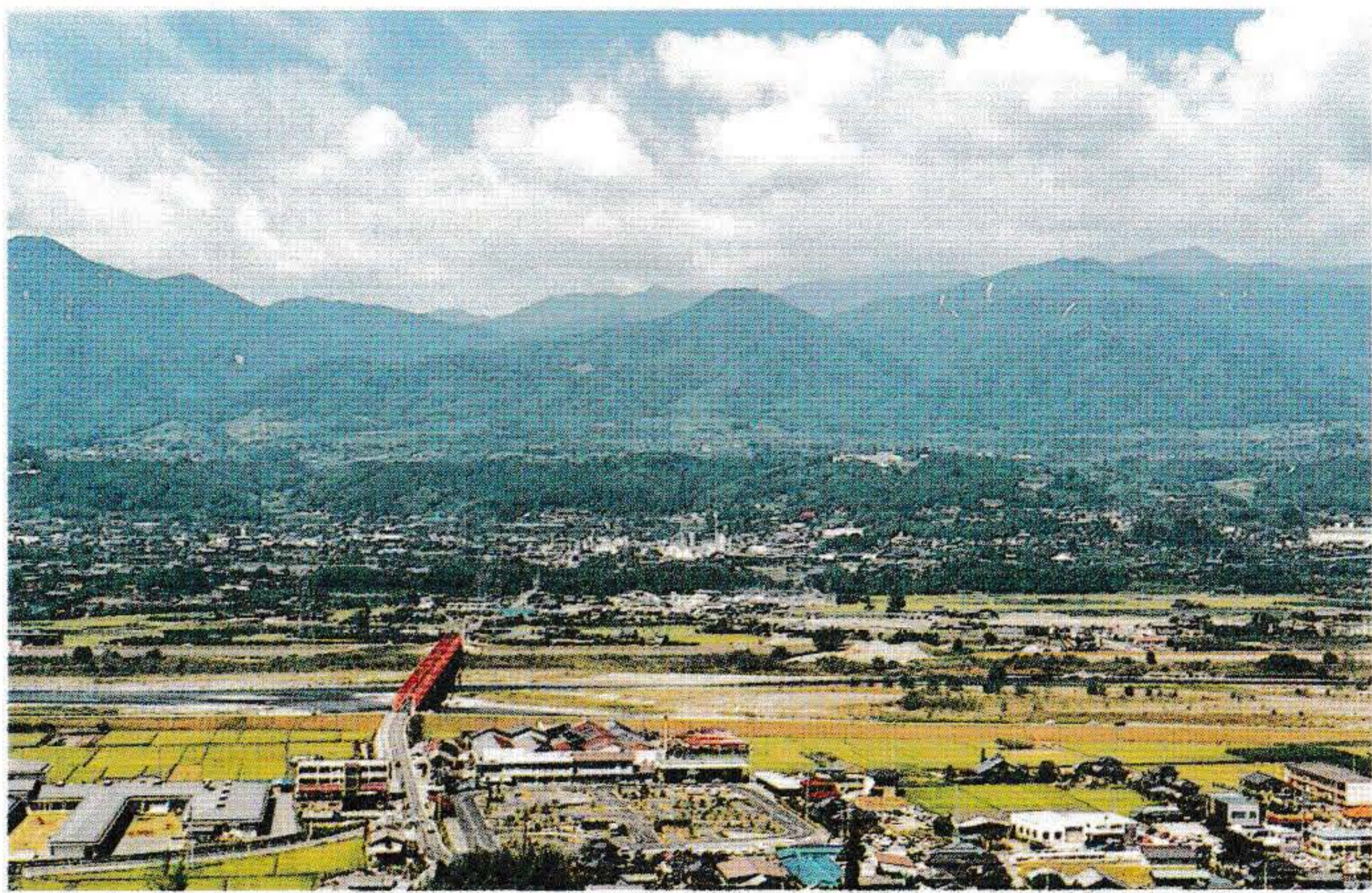
「麻績の里って座光寺のこと？、それとも違うの？」とよくいわれます。「おみ」は、麻績・<sup>おみ</sup>臣または<sup>おみ</sup>使主にもかかわり、使主は渡来人とかかわりが深いといわれます。全国には麻績の名が付く「郷」がいくつかありますが、古代の朝鮮と関係が深いといわれるところもあります。麻績という地名をさらに確かめてみたいものです。

## 宇沼村麻績の里

奈良時代には、現在の下伊那郡全体と上伊那郡の南部を「伊那郡」と呼ばれていました。この郡の中に「郷」と呼ばれるまとまりが五つありました。その中の一つに「麻績郷」があります。

麻績郷の範囲は、飯田松川から片桐松川までの天竜川西側の一帯で、座光寺はその中に含まれています。

阿彌陀様を迎えたと伝えられている本田善光の生まれた所は、古い書き物によると「宇沼村麻績の里」といわれています。宇沼村を飯沼村と呼び替えてみると、現在の上郷飯沼・座光寺下段・高森町下市田あたりかも知れません。その中の「麻績の里」は、何処かははっきりしませんが、座光寺あたりかも知れません。



飯沼・座光寺一帯

## 麻績の里はいつから使われたか

『元善光寺縁起』による本田善光の頃から1000年以上の間は、「麻績の里」の呼び名は記録や書きものには全く出てきません。1854～1859年（安政年間）に、座光寺村の庄屋役であった北原稲雄が、座光寺のことを「麻績の里」と呼んでいます。1874年（明治7年）になって、八幡宮と呼ばれていた産土社を「麻績神社」、新築した学校の名前を「麻績小校」と呼ぶようにしたのも、北原稲雄といわれています。

その頃から、正式ではありませんが、座光寺地区では麻績の里という呼び方がよく使われています。



筑摩県権令永山盛輝の書

## 座光寺には渡来人の古墳がある

最近の研究によると、高岡1号古墳・畦地1号古墳・北本城古墳は、朝鮮から渡来してきた人々によって築かれた古墳といわれています。現在のところ、飯田下伊那地方では渡来人系の古墳はこの3基だけです。

『元善光寺縁起』に出てくる本田善光は、古い時期の名前を「若麻績東人」ともいわれています。「麻績」が使われています。「麻績」という呼び名は、渡来人そのものの言葉ではありませんが、渡来人にかかわる言葉という説もあります。本田善光は仏像を迎えたという人であり、麻績という名前が付けられていたことから、渡来人の一人であるという説もあります。

恒川地籍には、奈良時代の役所（古代郡衙）がありました。また、上郷飯沼から高森町下市田にかけて、馬の飼育にかかわる役所もあったといわれています。そうすると、飯沼・座光寺・下市田あたりが、麻績郷の中心であったかも知れません。また、麻績の里の中心は、伊那



高岡の森とその周辺

郡衙のあった座光寺あたりと思われる。（今村善興）